

### ラトビア駐日大使が来町

3月14日、ラトビア共和国のペーテリウス・ヴァイヴァレス駐日大使一行が町を表敬訪問に訪れました。町議会で記念スピーチを行い、町議会議員との懇談会で、同共和国ルイアナ町との交流促進に期待を示しました。



▲議会で記念スピーチをしたヴァイヴァレス駐日大使▲

昨年10月に同国名誉領事に就任した旭川市内の会社社長井下佳和氏の就任祝賀会に出席のため、旭川入りしました。

議場に立ったヴァイヴァレス大使は、本町の訪問団が昨年訪れたルイアナ町について「ラトビアでも有名な芸術家、画家、スポーツ選手がいることで有名。大きな美術館、博物館もある。農業、乳製品、木材産業分野が発達しており、東川町ともビジネス面で共通点がある」と紹介しました。

また「ラトビアでは日本の文化、芸術的な知識に興味を持っており、

エコロジ分野や効率的なエネルギー利用に興味がある。日本の優れた知識を導入したい」などと今後の姉妹都市締結、交流拡大に大きな期待を示しました。



▲議会議員との懇談会も

同大使は、今年7月にも再び来町する予定です。

### 国際教育推進フォーラムの開催

町立第三小学校（渡辺輝男校長）を地域中核校として、昨年からは町内小、中、高校で始まった国際教育推進の2年目に向けて、東川町国際教育推進協議会（委員長・伊藤亮旭川医



の尊重と国際社会での強調、異文化理解を育て、さらにわが国の伝統と文化を尊重する教育が必要」との考え方を示しました。大津氏は「その国に行っ

たような共感的理解をどうやって子供たちに教えることが出来るか、『違うけれど同じ』という多文化の理解と交流・共生、『過去があつて未来がある』という歴史認識、『自分も社会の一員』という意識、『私にも何か出来る』という参加・協働をどう教えることが出来るか』などポイントを指摘しました。

文部科学省中等教育局から大森撰夫国際教育課長、日本国際教育学会副会長の道教育大札幌校、大津和子教授Ⅱ写真Ⅱを講師に迎えました。第三小・辻野尚広先生が初年度の取り組みを発表しました。

大森氏は、「国際教育について」と題して、文部科学省が進める国際教育プログラムの考え方について触れました。特に帰国子女の増加、外国人居住者の増加（ニューカマー）など、国内教育環境の変化に対応して国際教育の必要性が高まっていることなどを前提とした上で「日本以外の国へ

### 町内小、中学校から159人が卒業

卒業式シーズンの3月、町内の小学生72人、中学生87人合計159人が通い入れた学びやかな新たな巣立ちを迎えました。

第一、第二小の卒業式は18日行われました。まだ袖口がだぶついているちよつぱり大きい中学校の制服に身を包み、第一小から3人、第二小からは8人が希望いっぱい笑顔で春を迎えました。

### 「番店」なる秘けしを伝授、商店意識啓発セミナー

3月19日、東川町商工会主催の商店意識啓発セミナー「地域一番店はここが違う」講演会が道の駅・ひがしかわ道草館で開かれました。

お店繁盛の特効薬、商店街活性化の秘けしを伝授してもらおうというもの。講師はシンクタンクの榎船井総合研究所（東京）から上席コンサルタント、梶野順弘氏が来町しました。

停滞する景気の中で、商店街をどう活性化すればいいのか、経営するお店を繁盛店にするにはどうすればいいのか？ 梶野氏は「変化に対応し、マクロの時流をつかむこと」と定義しました。

その具体的方法を「自分でお客さんに近づくこと。待つているだけではお客さんが望むものは分からない。自ら出向き、注文を取って歩かなければだめ」と強調しました。

さらに「新しい価値の創造が必要」と話しました。

「靴はだれでも持っているから売れない。しかしウォーキングシューズは売れている。かばんは売れないがトラベルバッグ



### 旭岳パークレンジャーの青木倫子さん(30)Ⅱ写真中央Ⅱが(独)国際協力機構の青年海外協力隊員として、ケニアに赴任することになり、3月17日松岡市郎町長にあいさつに訪れました。

旭岳での国立公園レンジャー活動の実績などが認められました。24日出発し、今後2年間、ケニア・アバーデア国立公園（首都ナイロビから北方約300キロ、面積約800平方キロ）で野生生物保護など、環境保護活動を担当します。ケ



ニア野生生物公社の教育担当官補佐として、地域住民や小中学校などで保護教育活動をする予定です。青木さんは札幌市出身。同市内の北星女子短大を卒業後、カナダ・カルガリー大卒（国際開発専攻。帰国後NPO（非営利活動）法人ねおすの旭岳パークレンジャーとして3年間大雪山国立公園で環境保全活動を行ってきました。

帰国後は「再び旭岳パークレンジャーとしてケニアでの経験を生かしたい」と話しています。

務員になって役場に勤めたい」「農家を継いで頑張りたい」「野球選手になりたい」とそれぞれの大きな夢を披露。満面の笑顔を披露。満面の笑顔を披露。満面の笑顔を披露。

第106回の卒業式を迎えた第二小（兼重一男校長）では、兼重校長から一人ひとり卒業証書の授与を受け、門出のお祝いに励ましの言葉を授けました。8人は、一人ひとりしっかりとした足取りで登壇し「将来子供の教育に携わりたい」「立派な公



兼重校長から卒業証書を受ける佐藤華音さん（第二小で）

第三小では6年生の在籍がなかったため、卒業式はありませんでした。